

主 題：主の奴隷

聖書箇所：ヨハネの福音書 13章1-17節

まず、みことばを読みます。ヨハネ13：1-17「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。：2 夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、：3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行くことを知られ、：4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。：5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。：6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」：7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」：8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」：9 シモン・ペテロは言った。「主よ。わたしの足だけでなく、手も頭も洗ってください。」：10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」：11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない。」と言われたのである。：12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。：13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。：14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。：15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。：16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。：17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。」

ある人々は、今読んだこの箇所から、イエスご自身が話す対象が変わっていると言います。というのは、12章の終わりまで、主イエス・キリストは、イエス・キリストを知らない人々とイエスを信じていない人々との時間を取っておられました。様々な奇蹟を為し、様々な教えを為し、彼らがこの救いに与るようにと導きをして来られました。でも、13章に入ると、今度は自分を愛する者たち、主イエス・キリストを信じて救いに与っている者たちと時間を取られるのです。13章に記されている出来事は、皆さんよくご存じのように、「最後の晩餐」と呼ばれるものです。イエスが弟子たちと最後に食事をされた、夕食をともになさったこの最後の晩餐。みことばは私たちにそれはイエス・キリストが十字架に架かって死なれる前日のことであると教えます。イエスが十字架にお架かりになるその前の日に、主が何をなさったか、弟子たちとともに夕食を取られたのです。

もちろん、そこには目的がありました。そのことを私たちは今から見て行くのですが、その前に一つ見ることがあります。この時まで人々はこのようにして過越の祭りを祝っていました。過越の祭り、すなわち、モーセがイスラエルの民を率いてエジプトから出て来たその時を記念した訳です。主のなさったすばらしい解放の救いのみわざを覚えて、彼らは過越の祭りを毎年祝いました。しかし、このイエスの最後の晩餐以降、これから人々は過越ではなくて、聖餐式を祝うようになったのです。そのように変えられていくのです。というのは、実は、このヨハネ13章の中には詳しい説明がなされていません。13章の31節から38節を見ると、その間に起こったことをヨハネは詳しく記していませんが、マタイの福音書26：26から、また、マルコ14：22から、ルカ22：17から、そして、1コリント11：23から、詳しく記されています。つまり、この最後の晩餐のときに、イエスは人々に聖餐式の話をしたのです。ですから、これ以降、人々は聖餐式を祝う者へと変えられていくのです。非常に興味深い展開がこの13章からなされていきます。

私たちが今から学んでいくことは、先程も話したように、この最後の晩餐という出来事を通して、主ご自身が弟子たちに教えようとした大切なことです。今私たちが見たところは、最後の晩餐の中でも主イエス・キリストが弟子たちの足を洗ったという、その出来事が記されている所です。皆さんお一人ひとりがよくご存じの箇所です。主が弟子の足を洗われた。これはこのみことばによれば、主イエス・キリストの「愛の行為」であったと言います。1節にそのことが記されています。「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」。つまり、ご自分がこの世に来られたその目的を果たすべきそのときが近づいた、そのときがまさにやって来たことを知られたイエス・キリストは、弟子たちに対して愛を示されたと言うのです。

この一連の出来事を通して、主が弟子たちに教えたかったことは何だったのでしょうか？それは13：34のみことばが教えるように「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」でした。これが主が最後の晩餐を通して教えたかったことです。十字架に架かる前に、主イエスが弟子たちに教えられたことです。このことを人々に伝えたかったのです。イエス・キリストを信じる一人ひとりが「互いに愛し合っていく」ことです。皆さんはそのことが神が望んでおられることであり、みこころであることをご存じです。でも、正直に言って、愛し合うことは非常に難しいことです。主が愛されたように、愛してくださったように、兄弟姉妹を愛するということは非常に難しいことです。それは皆さんご自身がよくお分かりになっておられると思います。

では、どうすれば私たちは主が望んでおられることを実践することができるのか、行なうことができるのでしょうか？そのために必要なことは、主が示されたその模範をしっかりと見ることです。主が示された主の愛をしっかりと観察することです。二つの特徴があります。私たちは今からそれを見て行きます。

☆主の愛に関する二つの特徴

一つは「与えること」であり、もう一つは「仕えること」です。それが私たちがこのレッスンを通して学ぶことのできるものであり、学ばなければいけないことです。私たちは「愛」ということばを頻繁に使いますが、主の愛を見るときに私たちはこの二つのことを教えられます。

1. 与えること 1-3節

この1-3節を見ると、まさに主ご自身の人々に対する愛が記されています。イエス・キリストを信じる者たちに対する愛と、主イエス・キリストを未だ信じておられない人々への愛です。

1) 弟子たちへの愛

先程読みましたが、1節の後半に「その愛を残るところなく示された。」と書かれています。これはこれまでと異なる愛で愛されたのではないのです。主は変わらぬ愛をもって愛しておられます。しかし、ここで「残るところなく」と言われたのは、ここで主は再び全き愛をもって、完全な愛をもって、これに勝る愛はないという、そのような完全な愛をもって弟子たちを愛し続けたと、そのことを改めて強調するのです。これまでもそうだったし、そして、まさに「明日、わたしは十字架に架かる」というその時にイエスがなさったことは、自分の愛する弟子たちを完全な愛をもって、最高の愛をもって愛されたのです。あなたたちはどれ程祝福されているのか、どれ程すばらしい祝福があなたたちに約束されているのか、主はそのことを明らかになさいました。

ですから、皆さん、この13章から17章までに書かれていることは、イエス・キリストを信じる者たちに約束されたすばらしい神の祝福です。そこに私たちは神の思いやりを感じます。私たちのことを十分に知っておられる神は、あなたに必要な物を与えてくださっている。あなたが主に喜ばれる歩みを為していくために、あなたが神の栄光を現わしていくために必要なことをすべてご存じである神が、その完全なご配慮をもってあなたにすばらしい祝福、約束を与えてくださっているのです。その幾つかのことを記しました。

* 永遠の住まい = 14：2 「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」、イエスを信じているあなたには永遠の住まいが約束されていると言います。私たちはこの地上での生活が終わったら、主が約束してくださった永遠の住まいへと移されます。私たちはこの主のもとへと召されます。主とともに永遠を過ごすのです。そのような天国が神によって約束されています。

* 永遠を主とともに = 14：3 「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」、同時に、私たちはこのすばらしい救い主、すべてをお造りになった創造主なる神、あなたや私を救ってくださった救い主と永遠とともに過ごすのです。その御顔を拝して永遠とともに過ごすのです。

* 聖霊 = 14：16-17 「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。：17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」ここには、聖霊なる神が私たちのために備えられていることが約束されています。多くの人々はこのように考えました。もし、私がイエスがこの地上におられた今から約2千年前に住んでいたとしたら、きっと私の信仰は変わっていたに違いないと。イエスの御顔を拝し、イエスの御声を実際に聞き、イエスの奇蹟を実際に見ていたら、私の信仰は今よりはるかに強固であったのではないかと。皆さん、このように思ったことはありませんか？「2千年前のあのときに私が生きていたら良かったのになあ…」と。聖書を見ると、実は、私たちの方がその当時の人々に比べてはるかに優れていることが分かります。見

てください。ヨハネの福音書14章は、主は私たちに助け主、聖霊なる神を送ってくださった、その方はいつまでもあなたがたとともにおられる方だと教えています。2千年前なら、私たちはイエスのもとへ出かけて行かなければいけなかった。ときには、声が聞こえないかもしれません。しかし、今私たちは神が私たちの内にいてくださるのです。どこに行こうとその神がともにいてくださるのです。眠っているときも起きているときも、道を歩いているときも、電車に乗っているときも、何をしてもその神が私たちとともにいてくださるのです。その方は決してあなたを忘れることもなく、あなたから離れることもないのです。そのようなすばらしい祝福を私たちは神からいただいています。聖霊なる神が、あなたを助けてくださる方があなたといつもとともいてくださるといふ大きな祝福を私たちはいただいているのです。

***主の平安**＝14：27「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

***主の喜び**＝15：11「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

***主による勝利**＝16：33「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはずでに世に勝ったのです。」、確かに、この地上にあっては大変な信仰の戦いがあると言います。神に喜ばれる歩みをしようとするなら、多くの摩擦を経験すると言います。でも、主はしっかりあなたとともにいて、あなたに勝利を与えてくださると、そのような約束を私たちはいただきました。

***主のとりなし**＝17章には、すべてをお造りなされた創造主なる神が、私たちのためにとりなしをしてくださっている、神があなたのために祈ってくださっているとあります。

これだけを見ただけでも、このようなすばらしい祝福、このようなすばらしい約束が私たちに与えられました。信仰者の皆さん、私たちはこのような祝福をいただいている者として生きて行くべきだと思いますか？「いつも喜んでいなさい」というみことばがありました。喜んでいることができるのは主の喜びをいただいているからです。主イエス・キリストご自身はいつも喜んでおられました。私たちはその方の喜びをいただいたからいつも喜ぶことが出来る者になったのです。

では、私たちが考えなければいけないことは、その喜びをいただいているながら、なぜ、いつも喜べないのかということです。主の平安をいただきながら、なぜ、私たちの心は騒ぐのか、不安を覚えるのでしょうか？その原因は主にはありません。その原因は私たちにあります。私たち自身が主に喜ばれることを選択していなければ、その主の喜びによって私たちの心が満たされることはありません。私たちに平安をもたらしてくださる神が喜んでいらっしやらなければ、その平安を私たちの心に経験しながら生きることとはできません。

神はこのような祝福をくださった。でも、その祝福を楽しみながら、喜びながら私たちは日々歩んで行くことは可能ですが、そのためには、私たち一人ひとりがその神に喜ばれることを選択することです。私たちはそれしかその喜びを満喫しながら生きていくことは出来ないのです。私たちの心の中に罪があるならば、悲しいことに、その罪があなたから喜びを奪っていくのです。あなたの心の中に問題があるならば、それはあなたから喜びや感謝を奪っていくのです。主は私たちにこのようなすばらしい約束を一方的に与えてくださった。あなたに救いをくださっただけではない、主は永遠を約束して下さり、あなたはこの主とともに永遠を過ごすという、そのようなすばらしい祝福をいただき、聖霊をいただき、主の平安をいただき、主の喜びをいただき、主の勝利をいただき、そして、その主がいつもあなたを覚えて祈ってくださるといふのです。

私たちの間でも、祈りは大きな力があります。こうして国内であろうと国外であろうと働きをしているときは、確かに、肉体的に疲れます。しかし、それに勝る力が神から与えられます。その力はどこから来るのでしょうか？皆さんの祈りからです。私たちはチームとして主のすばらしさを宣べ伝えるために、みなで働いているのです。それぞれに違った賜物があり、違った役割があります。しかし、みながいっしょになって働きを為すのです。だから、皆さんが祈ってくださることによって大きな力をいただくのです。何回かお話したように、1979年に私が宣教師として宣教団体に迎えられて、アメリカの教会を回ってデピューテーションをしたときに、私が話したことは「お金は要りません。お金は神さまがくださるから。でも、皆さんの祈りが要ります。なぜなら、これは皆さん一人ひとりが決めてくださらなければいけないことだからです」でした。その祈りが私にはどれだけ大きな力だったのか、皆さんそのことはよくご存じのことです。祈り合えるというのはすばらしいことです。祈りというのは、ものすごい力です。

考えてください。人間が祈ること、その祈りによってそのような励まし、力をいただくのであれば、神ご自身が祈ってくださったらどうですか？私たちの弱さを、私たち以上に分かっただけでいる主が

祈ってくださっているのです。そんなすばらしい祝福に、私たちは神の一方的なあわれみによって招かれたのです。私たちが何かをしたからではないのです。私たちが神に喜ばれる人になったから、このような祝福をいただいたのではありません。神はこのような祝福を一方的にあなたや私に与えてくださったのです。神の愛というのは「与えるもの」です。そうして、神は一方的にあなたに与えてくださったのです。

2) 未信の者たちへの愛

同時に、今日のテキストを見ると、イエスを知らない、まだ、イエスを信じておられない人に対する神の一方的な愛が記されています。10節を見てください。イエスは最後にこのようなことを言われています。「…あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」、イエスはなぜこのようなことを言われたのでしょうか？その説明が次に記されています。11節「イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない。」と言われたのである。」と。イエスはイスカリオテのユダのことをよく知っておられました。2節を見ると「夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、」とあり、ユダは悪魔の影響を受け、それを望んだのです。彼にとってはイエス・キリストよりもお金の方が優先されるべきことでした。彼は主イエス・キリストを銀貨30枚で売ろうとしたのです。彼にとってはイエス・キリストよりも銀貨の方が大切だったのです。彼は神を愛するよりも金を愛していたのです。未信者の特徴です、救われていない人間の特徴です。主はそのことをご存じでした。彼はみなとともに集まっているにもかかわらず、彼が考えていたことは、いつイエスを売ろうかということだけでした。

そのことを知っていながらイエスは、このイスカリオテのユダの足を洗うのです。そして、言うのです。「あなたがたはきよいのですが、みながそうではない。この中のある人物は、あなたたちのように神によって罪が赦されたきよい者ではない。わたしの前にまだ心を閉ざし、サタンの手下としてサタンの子どもとして神に逆らい続けている。」と。イエスがこのようなことを言われたのは、最後の最後に至るまでこのユダにも救いの手を差し伸べたからです。そうでなければ、もうこの集まりに呼ぶ必要はなかったのです。だから、イエスは「11人の弟子たちの足は洗うが、一人はわたしを信じていないから、その者の足を洗いません。」と、この場に着いて欲しくないを拒むことも出来たのですが、そうはなさらなかったのです。イエスは彼を招かれて、そして、同じように足を洗い愛を示されたのです。

イエスは言われました。「あなたがたのうちの一人はわたしを信じていない。わたしに逆らっている。わたしの敵だ。」と。そうして、彼に悔い改めのチャンスを与えたにもかかわらず、彼は最後までそれを拒んだのです。主は、ユダを知った上で、それでも彼に対する愛を示されたのです。覚えておられるでしょうか？ヨハネ3：16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と。神は一方的にひとり子を与え、人々に救いを備えられました。神の一方的な愛です。ガラテヤ2：20の後半でパウロはこのように言っています。「いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」。パウロは実際に告白しています。「私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子」と。主イエス・キリストはまさにそのことを私たちのためにしてくださったのです。あなたのためにしてくださったのです。あなたがすばらしい人だからではないのです。神に逆らい、サタンの手下として歩んでいたあなたのために、神ご自身が一方的にこの救いを備えてくださった。神があなたを愛したのです。神があなたを救ってくださったのです。

このような愛をもって愛されている皆さん、あなたは次のことを問いかけなければいけません。

[適応]

a. 神への愛：自分のすべてをささげる

ちょうど、私たちがローマ人への手紙12章で学んだことです。12：1「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」、神のあわれみを覚えている者たちは、その神のあわれみに対して心から感謝し、そして、心から感謝している者たちは自らのすべてを喜んで主にささげ、「主よ、どうぞ私を用いてください」と、そのように主の前に助けを求める者です。そのように自らをささげる者たちです。私たちが考えなければいけないことは、このような愛をもって愛してくださった主に対して、私たちはどのような愛をもって歩んでいるかです。あなたは自分のすべてをこの主にささげていますか？主に喜んでいただくために、喜んで自分自身を犠牲にできますか？主はあなたのために喜んでご自分のいのちを犠牲にしてくださったのです。あなたは心から「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」（マタイ22：37）とある通り、そのようにしていますか？そのことを問いかけないといけません。

b. 兄弟姉妹への愛：霊的成長のために自分をささげる

二つ目に、私たちはこの神の愛をいただいた者として兄弟姉妹を愛しているかどうか、そのことを問いかけてみなければいけません。兄弟姉妹を愛するとはどういうことでしょうか？彼らの霊的成長のために自分をささげるといことです。彼らの信仰が成長するために、自らを喜んでささげていくといことです。もちろん、私たちは自分の成長に関心を払い、その成長のために万難を排することが必要です。しかし同時に、私たちは愛する兄弟姉妹たちの信仰の成長のために尽くしていくといことです。兄弟姉妹を愛すること、彼らの霊的成長のために尽くしていく、このような生き方をしているといことは、あなたが救われているからだともみことばは教えます。救われている人々は、自分だけに目を向けてきた生き方から、人々に目を向けて、彼らのために何かをしようとします。Ⅰヨハネ3：14でヨハネはそのことを教えます。「私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。」つまり、救われたことを知っているといのです。それは兄弟を愛しているからだ。救われている人々には兄弟姉妹に対して主の愛をもって愛するといそのような愛が備えられたのです。「愛さない者は、死のうちにとどまっている」、つまり、兄弟姉妹を愛さない者は救われていないとヨハネは言うのです。

同じ3：10にはこのようにあります。「そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」と、「神の子どもと悪魔の子ども」、救われている者と救われていない者との区別はどのようにされるのか？「義を行なわない者」、神が喜ばれること、神の前に正しいことを行なわない者、その人は救われていないといのです。そして同時に、「兄弟を愛さない者」、その人も救われていないといのです。また、同じ3：16-18にはこのように記されています。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。：17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。：18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」、兄弟姉妹が困っているときには助けてあげなさいといいます。霊的にも、もしかすると物質的にも必要があるかもしれません。どのようなニーズがあっても、私たちはその必要に応じていくといのです。なぜなら、私たちの必要に対して主がそのようになさったからです。兄弟姉妹への愛、私は本当に愛する兄弟姉妹の信仰の成長のために、霊的成長のために喜んで自分自身をささげようとしているかどうか？

c. 未信者への愛：救いの知らせを伝える

まだイエスのことを知らない人々に対する愛です。まだイエスを信じていない人々たちのことを愛しているかどうかです。彼らを愛するなら私たちがすることは、彼らに一番必要なことをお伝えすることです。救いのメッセージです。この福音のメッセージを伝えること、それが私たちに出来る最善のことです。ローマ人への手紙10：14-15でパウロはこのように言いました。「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。：15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」、信仰は聞くことから始まるのです。聞くことは神のみことばです。この神のみことばを聞くことによって、神はそのみことばを用いて彼の心に働いていくのです。私たちが語らなければいけないのは神のみことばです。

どうですか皆さん、私たちの周りには間違いなくこの主を知らない人が溢れています。どこを見ても、皆さんの家族の中にも、友人の中にも、職場の同僚の中にも、クラスの友だちの中にも…。主があなたに望んでおられることは、出て行ってその人々にこのすばらしい救いのメッセージを語ることです。

先々週の金曜日だったと思いますが、アトランタで集会をしているときに、ジム・ライト牧師がいつもは学びが終わってからアナウンスをなさるのですが、そのときは、これから夫人のサンディー姉を病院に連れて行かなければいけないのと、途中でアナウンスをしたいと言って話されました。ある一人の宣教師ジム・ポラックのことでした。彼はホワイト・ウオーター教会が支援する宣教師です。この人は60代の後半です。仕事をリタイアなさってから残った人生をどのように過ごそうかと考えていたとき、主は彼の心に、また、奥さんの心に働いて、宣教地に赴いてイエス・キリストのことを知らない人々に福音を伝えようという思いを与えられました。そして、彼らは一つのミッションを立ち上げました。持ち物全部を売り払って、彼らは南米のベネズエラへと出て行きました。そして、多くの僻地の子どもたちにイエス・キリストの福音を伝え続けたのです。その働きは神に祝われて多くの子どもたちが福音を聞く機会が与えられました。彼はいつも赤いスーツを着て、子どもたちの前でイエス・キリストの福音を語り続けたのです。8月27日、ジム・ライト牧師の所にあるメールが届きました。その内容は、このジム・ポラック宣教師が眠っている間に召されたといものでした。そのことをライト牧師が涙を流し

ながら報告してくれました。その後で家族からの手紙を私も読ませていただきました。ご主人を一瞬のうち亡くしてしまった、この宣教団体はこれからどうなっていくのか？彼が創始者であり代表でした。家族はこのように書いていました。「神さまに感謝します」と。それは再び天で再会できるから、それだけでなく「この宣教の働きもすべて主のみわざだから、主がこれから導いてくださる。」と。

ときに、私たちはこのような出来事を経験します。どうして？と思うことが私たちの周りにあります。しかし、私たちはそのことに対して答えを求め続けるよりも、神が私たちに託された働きを真剣に、そして、忠実に成し続けていくことです。皆さん、私たちの周りには、この救いを知らずに、このような永遠の希望を持っていない人が溢れているのです。彼らは今のこの瞬間、永遠の地獄へと向かっているのです。私たちが自らに問いかけてみないといけないことは、私は主から預かった福音宣教という働きにおいて怠慢になっていないかどうかです。その働きに怠けていないかどうかです。何となく一日を過ごし、一日を終わってしまう、そんな無駄な日を過ごしていないかどうかです。もし皆さんが「私には宣教はできない」と言われるのなら、皆さんは神が言われたことを信じていないのです。神は「あなたを使う」と言われたからです。確かに、病弱かもしれない、かつてのように動けないかもしれない。でも、神は「あなたを使う」とおっしゃったのです。私たち主によって救われた信仰者は、どんな状態にあっても、どのようなコンディションにあっても、いつも「主よ、どうぞ私を使ってください。今日、私をだれかの宣教のために福音宣教のために使ってください。」と、そのように祈りながら一日一日を過ごすことです。今日、皆さんにお願いしたいこと、チャレンジしたいことは、皆さんがお帰りになる前に、「神さま、これから家に戻ったときに、まだイエスを知らない家族にあなたの福音を語れるように、その機会を与えてください。」と。明日、学校に、職場に出て行くときに、祈りをもって「主よ。どうぞ、あなたのすばらしさを証ができるように機会を与えてください。」と、その機会を探りながら歩んで行くなら、確実に、神はその機会を与えてくださいます。

そのようにして信仰者は生きて行くのです。私たちはこの主からいただいたすばらしい救いのメッセージを人々に分け与えていくのです。それが愛だと言うのです。主がそのように私たちを愛して、このすばらしい救いをくださったように。問題はあなたがそのように生きていくかどうかです。そのようにあなたは生きていこうとしているかどうかです。主の愛を見るときに、私たちが教えられることは、確実に「与える」ということです。

2. 仕えること 4-17節

4節を見ると、イエスは十字架が今まさに自分の身に起こると分かったときに何をなさったのか？そのことが記されています。「夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。」。上着を脱いで、イエスは弟子たちの足を洗われたのです。この姿は奴隷の姿です。彼らは上着など着ていません。そして、彼らはゲストの足を洗うのです。主人の足を洗うのです。この「足を洗う」という行為は、当時、最も身分の低い人たちが行なった仕事です。恐らく、その様子を見ていた弟子たちは思ったでしょう。自分の先生がこんなことをしておられる、ひょっとしたら、ある者はその行為を見て恥じ入ったかもしれません。そして、イエスはこのように教えたのです。「わたしが為しているようにあなたたちも仕え合うことです。兄弟姉妹に仕えていくことです。」と。その実践に関して二つのことを覚えてください。

◎仕え合うことを実践するために

1) 自分の身元、素性を覚えること

私がいっただれなのかを覚えることです。信仰者の皆さん、あなたは主の奴隷なのです。かつては罪の奴隷、サタンの奴隷でした。みな奴隷なのです。罪に仕えるのか、それとも主に仕えるのか？私たちは神の奴隷とされたのです。神に仕える奴隷なのです。「しもべ」は仕える者、雇われる者ですが、「奴隷」はお金を払って買い取られるのです。主はあなたのためにご自分のいのちという代価を払って買い取ってくださったのです。あなたもわたしもイエス・キリストを信じる一人ひとりはこの主の奴隷なのです。だから、私たちは当然、仕えられる者ではなくて仕える者なのです。この中に主人はいないのです。みな奴隷なのです。

2) 主のみこころ

二つ目に覚えることは、それが主のみこころだということです。主が望んでおられることです。だから、17節の終わりに「それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。」とあります。人々に仕えていくときに主はあなたを祝福してくださる、なぜなら、それが主のみこころだからです。そして、私たちがそのみこころに逆らったなら、そのことを主の前に告白することです。そのことをここでイエスはペテロにお教えになりました。

◎二種類の聖め

a) 全身の聖め 10節

ペテロは言います。9節「主よ。わたしの足だけでなく、手も頭も洗ってください。」と。そのときに、イエスは言われました。10節「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。」と。これは霊的なきよめのことです。罪の赦しです。8節に「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」とあります。イエスが洗ってくださるのです。イエスがあなたの罪を赦してくださるのです。それによってこの主、神と正しい関係を持つ者となったのです。

だから、イエスが言われていることは、イエスによって罪がきよめられた人、全身がきよめられた人、その人は再び全身をきよめていただくこと、罪の赦しをいただく必要はないということです。

b) 部分的聖め : 足を洗う

但し、部分的なきよめが必要です。「足を洗う」ということです。私たちの日々における様々な罪をこの方の前に告白していくということです。Iヨハネ1:9に「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」と記されている通りです。私たちクリスチャンの歩みは、いつも自分の罪を告白しながら歩いて行くことです。すべてをお造りになった創造主なる神、私たちがこのお方を見るときに、私たちが仕え合っていくために除かなければいけないものは「プライド」であるということに気がきます。プライドがあると、私たちはなかなか仕え合うことをしません。却って、仕えられることを期待します。それを要求します。

ところが、弟子たちには問題がありました。ルカの福音書22章に、この最後の晩餐のときに弟子たちがこんな話をしていたことを記しています。ルカ22:24「また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった。」と。悲しいことです。イエスとともに三年半過ごした弟子たちが最後に話していた内容は「だれが一番偉いか」ということです。13:3を見ると「イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行くことを知られ」と書かれています。なぜ、こんなことがここに記されているのでしょうか？つまり、ヨハネはここでイエスがだれなのかを明らかにしたのです。このイエスのみ手にはすべてのものが与えられている、すべてのものはこの方の所有物、この方はすべてのものに勝るお方だと言うのです。敢えて、それを強調することによって、その後に出て来るイエスの行為がいかに私たちの理解を超えた「謙遜」であるのかを教えたのです。すべての所有者であり、すべての持ち主である神ご自身が被造物の足を洗うのです。被造物に仕える者となられたのです。私たちはみな被造物です。創造主なる神が人間の足を奴隷として洗ったのです。

ヨハネはこうして、イエスがいかにへりくだられたかということを明らかにしました。だから、ローマ人への手紙12:10でこのように書かれています。「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」と。

最後に、次のことを考えてください。

[適応]

あなたは仕える人ですか？人々に仕える信仰者ですか？

- ①主の奴隷として、忠実に主に仕えていますか？言い方を変えて、主のみこころに心から従おうとしていますか？あなたも私も主の奴隷なのです。主のみこころに従って行くことは、私たちにとって一番相応しい生き方なのです。その生き方が私たちに最高の幸せをもたらすのです。そして、その生き方を神は喜び、その生き方に祝福をくださるのです。そのように生きておられますか？
- ②主の奴隷として、あなたは教会に仕えていますか？神さまがなぜ信仰を持ったあなたに霊的な賜物をお与えになったか？覚えてください。それはあなたがその賜物を用いて仕えるためです。教会は、主に仕える者たちが集まっているところなのです。皆さんに与えられた賜物を用いなければ、皆さんの信仰が成長しないだけでなく、教会全体が成長しないのです。奉仕する人とならない人に分かれるようなことがあつてはならないのです。みな奉仕する者たちです。みな働き人なのです。なぜなら、そのために神はあなたに特別な賜物を与えてくださっているからです。あなたが持っている賜物を持っている人はあなたしかいないのです。
- ③主の奴隷として、互いに仕え合っているかどうかです。兄弟姉妹の信仰が成長し、主を愛する者へと益々変えられて行くために、また、困っている人々をいたわり合い、その必要を満たすことにあなたは努力していますか？こうして私たち罪人が集まるときにいろんな問題があります。私たちがこのように集まるときに何かをもって人を見下すようなことがあつてはならないのです。人の悪口を言いあつていがみ合うような場所であつては決してならないのです。そのような信仰者であつてはならないのです。また、小さな仲間を作ってその仲間を拡大させようと謀っている、そんなことがあつてはならないのです。却って、私たちは互いに仕える者となり、兄弟姉妹の信仰が成長し、主を愛する者へと益々変えられて行くために仕え合っていくことです。私のために何をしてくれるだろう？ではないのです。私の愛する兄弟姉妹のために何をするかです。

もし、皆さんが信仰において成長していないなら、先ほども話したように、感謝がない、喜びがない、

平安もないでしょう。その方へのアドバイスです。あなたに向けている目をあなたから外して、周りの人に向けることです。私たちの問題は「もっと私のために何かをしてください。」ということです。残念ながら、そのような人たちは悲しいことに成長しません。信仰がどんなに若くても、どんなに信仰の大人であっても、私たちが覚えなければいけないことは、私たちは人々に仕えていくということです。人々のために何かをしていくのです。そのときに、あなたが抱えている問題から解放されるのです。

こうして、教会にあって、人々が愛をもって互いに仕え合う、そのことを主は望んでおられます。素晴らしいことです。なぜ、素晴らしいのでしょうか？もし、私たち一人ひとりが、主が教えてくださったように、また、模範をもって教え示してくださったように、互いに愛し合って仕え合っていくなら、そのような個人個人、そのような群れとなっていくときに、間違いなく、それらを通して、私たちの素晴らしい救い主イエス・キリストの愛が周りに明らかにされていくのです。「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」（ヨハネ 13：35）。こうして私たちはこの方がまことの神であることを明らかにするのです。互いの間に愛があることによって、互いに仕え合っていくことによって。

最後に皆さんにチャレンジしましょう。このような祈りをもって、ぜひ、今日はお帰りいただきたいと思えます。その祈りとは「神さま、どうぞ私を変えていってください」です。だれかを指さして、あの人か…この人が…ではありません。変わらないといけないのは私です。私たちは変わり続けていかなければいけないのです。あなたが考えないといけないことは、あなたが主によって変えられ続けていくことです。キリストのすばらしさを証する者としてあなたが変えられていくことです。後のことは主が為して下さる。みこころははっきり示されたのです。主の愛をいただいた者たちは愛を分かち合う人になってください。主の模範を見た私たちは、互いに愛し合って互いに仕える者になってください。そのような人になるようにと神は望んでおられます。そうなりたいという決心をもって、そのようにさせて下さる神の助けをいただきながら、今日からまた新しい歩みを進めてください。

主が用いて下さる、そんな人と、そのような教会になることをともに祈り合ってください。